

教育モニター 様

この度は、「アクティブ・ラーニング」について、ご意見をいただき、ありがとうございました。

「アクティブ・ラーニング」については、小学校から大学までをつなぐ教育改革の視点として注目されています。県教育委員会としても、基礎的・基本的な知識・技能を基盤として、課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」は、これからの時代を生き抜く子どもたちにとって大切な学習であると捉え、それぞれの校種において実践の研究・開発に努めているところです。

ご指摘のように、小学校の低学年の頃から、遊びや体験を通して、身近な自然や文化、多様な人々に親しみをもち、知的好奇心や探究心を高めていくことはとても大切であり、子どもたちの思考力・判断力・表現力の育成にもつながると考えております。

県教育委員会主催の「社会科課題追究学習作品展」や「科学作品展」には、学習や生活の中で湧き上がる素朴な疑問を基に「知りたり！調べたい！」という強い願いをもって取り組まれた作品が数多く出品されています。昨年度も、小学2年生の子が、生活科の「町探検」の学習を生かして「町のひみつ」を詳しく調べたり、3年生の子が「月」に関心をもち根気強く観察を続けたりした作品がありました。今後も、自分の興味・関心や主体的に課題を追究していく能力を伸ばしていく活動に、多くの子どもたちが積極的に取り組むことができるように働きかけていきたいと考えています。

とはいえ、こうした作品展への応募やリーダー活動への参加は、家庭での学習活動による部分が大きく、全ての子どもが参加できるものではありません。ご提案いただいたように、学校の授業の中で「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れ、「思考力・判断力・表現力」を高められるように工夫していくことが大切であると考えます。実践校で授業の研究・開発を進めておりますが、いただいたご意見も参考にしながら、小学校の2・3年生においてどれだけ探究的な学習が成立するのか、実践の推移を見守りたいと思います。

これからも、第2次岐阜県教育ビジョンに掲げております基本理念である「地域社会人」の育成のために、地域の魅力や課題を見つけ、学び合う活動を展開したり、休日等を活用した地域の諸活動と連携を図ったりするなど、社会に開かれた学校教育の充実に努めてまいりたいと思います。

今回、ご意見をいただきましたことを感謝申し上げますとともに、今後とも御支援のほどお願い申し上げます。

平成28年6月6日

岐阜県教育委員会

学校支援課長

北岡 龍也